



中部フィルだより



理事長 建部 信喜

創立15周年記念演奏会開催について

皆様ご承知のように、中部フィルは2015年2月に創立15周年を迎えます。設立以来、小牧市を中心とした地域の多くの市民・サポーターの皆さんや行政・企業団体の熱い支援や激励を頂戴しながら、「地域に根ざしながらも、地域を超えたトップクラスのプロオーケストラ」を目指すまでに成長して参りました。15周年を祝っての記念演奏会を企画していたところ、楽団の設立以来一貫して、オーケストラの指揮・育成をお願いしてきた秋山芸術監督もまた、指揮生活50周年という節目の時を迎えられました。

当楽団はこれを機に記念演奏会として、2015年5月に「マーラー復活」の演奏会を開催することになりました。マーラーは大編成であり、地方楽団や地域の聴衆にあった曲ではないという意見や、実力・財政的にも無理ではないかという意見もあったのですが、秋山監督に目度い記念演奏会にふさわしいプログラムをご相談したところ、「15年やってきて力もついてきたので、大曲であるマーラーをやりたい。当団はプロオケなのにマーラーをやってない。来年度はオケのステップをひとつ上げてみたい」という提案を頂きました。

こうして、来年5月17日(日)愛知県芸術劇場コンサートホールにて、「マーラー復活」の記念演奏会を実施することになりました。

11月3日には、名古屋市音楽プラザの合奏場で、新聞やチラシで公募した記念合唱団の結団式と第一回目の練習が行われ、いよいよ具体的な活動が始まりました。新しい聴衆の増加や中部地区での知名度向上を狙っての挑戦となります。楽団の総力をあげた渾身の演奏と、指揮者・秋山監督にふさわしい、聴衆との感動の共有が今から楽しみです。

この記念演奏会では、地域の市民や楽団を支えてくれたサポーターの皆さんともども喜びをわかちあひながら、終楽章でのステージと客席が一体となった感動を味わいたいと思っています。チケット販売も開始いたしました。皆様ごぞってのご来場を心よりお待ちしております。

本年度の「文化功労者」として顕彰され、世界的にも著名な指揮者であるマエストロ秋山が振る、中部フィルの「マーラー復活」に是非ご期待ください。

Chubu Philharmonic Orchestra 中部フィル

中部フィルハーモニー交響楽団創立15周年
秋山和慶指揮生活50周年
記念演奏会

復活 マーラー
Auferstehung

指揮 秋山 和慶

ソプラノ 海原 恵美
メゾソプラノ 林 美智子

マーラー 交響曲第2番ハ短調「復活」
指揮 秋山和慶
合唱団 中部フィルハーモニー交響楽団15周年記念合唱団
合唱指揮 長谷 順二 内川 基一
プロデューサー 新井 隆 佐藤 隆
会場 芸術劇場

2015年 5月17日(日) 開演14:00 愛知県芸術劇場
開演15:00 コンサートホール

チケット
ボックス席: 8,000円 S席: 5,000円 A席: 4,000円 B席: 3,000円 C席: 2,000円 学生席: 1,000円
一般発売 / 10月29日(水) — 中部フィルサポーター・プレス先行予約 / 10月15日(水) - 22日(水)

チケットお取り扱い・お問合せ
中部フィルハーモニー交響楽団
TEL: 0568-43-4333

主催 中部フィルハーモニー交響楽団
後援 愛知県 / 名古屋市 / 愛知県財団法人名古屋市文化振興事業団
大田音楽文化協会 / 小牧市 / 小牧市教育委員会 / 中日新聞社

中部フィルハーモニー交響楽団 TEL: 0568-43-4333 <http://www.chubu-phil.com/> chubu-phil.jp 営業日: 火 - 土曜日 9:00 - 17:00

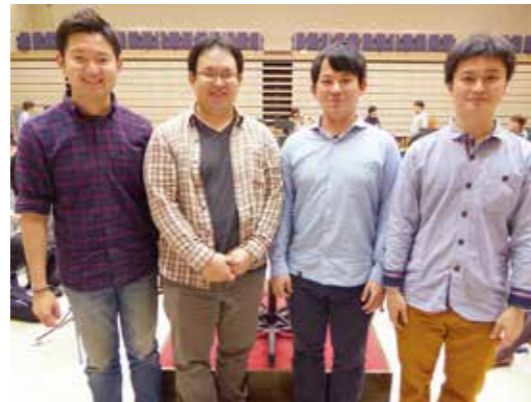
新メンバー紹介

河井裕二 チェロ

ついに憧れのオケマンになれました！チェロを弾くことを仕事にしたい。と思い始めた時から、プロのオーケストラに所属することを夢に音楽の勉強をしてきました！

その夢を達成する為には日本全国どこへでも行くつもりだったのですが、愛知生まれ、愛知育ちのそんな自分にとって、小牧に本拠地を置く中部フィルのオーディションがあるというのはとても気合が入るチャンスでした。無事入団する事ができてとても嬉しく思っています。そして、今こうして団員になり、中部フィルという存在がお客さんに会場に足を運んでもらいやすいオーケストラになればいいな、と願っています。

なかなかきっかけが無いと聴きに行かない敷居が高く見られがちクラシックの演奏会ですが、何も知識が無くたって、会場に足を運んでいただき生の演奏を聴いて頂ければ、肌に伝わる振動や息遣いを感じる事ができ、きっと喜んで頂けるはず！と思います。生の河井はどんな風にチェロを弾くのかな？といった疑問をきっかけに会場へお越しただくというのはいかがでしょう？



河井裕二 赤堀裕之史 原悠一 伊藤拓也

原悠一 チェロ

この度、10月に新規入団したチェロの原悠一です。札幌市出身で、武蔵野音楽大学を経て東京藝大別科を今年3月に修了しました。僕はチェロを10歳の時に始め、中学生の時に地元のジュニアオーケストラに入りました。その時にアンサンブルの楽しさを知り、将来はオーケストラでチェロを弾けたいと思い音楽大学に進学しました。大学ではオケ奏者になることを目標にし、オーケストラをはじめ弦楽四重奏やピアノ三重奏などの室内楽をたくさん勉強しました。

今回、中部フィルに入団ができてとても嬉しく思います。合格したときは嬉しさだけでしたが、そのあとはオケマンとしての自覚を演奏面や私生活の両方でひしひしと感じているところです。

まだ駆け出しで現場毎に覚えたりしなければいけない事がたくさんありますが、一つ一つの演奏会で経験を積み皆様に良い音楽をお届けできればと思います。

赤堀裕之史 トランペット

私はいままでに日本だけでなく様々な場所で演奏活動をしてきました。そこで得た経験と知識は今の演奏を支える礎になっています。今回、地元でもある中部フィルハーモニー交響楽団に入団できたことは、これからの自分の更なる成長をサポートして頂けることになり、何より夢でもあった地元の吹奏楽の発展のお手伝い出来るのが嬉しいです。

最高峰の音楽を奏で、世界に羽ばたく人材の育成、音楽溢れる町づくりなど音楽家としていかに社会に貢献していけるか、楽しみでもあり不安もありますが、人々の心を豊かにする音楽を目指して、これからも精進していきたいと思っていますので、是非ともご支援の方、よろしくお願い申し上げます。

伊藤拓也 打楽器

初めまして、打楽器奏者の伊藤拓也です。入団して間もないので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

僕は私の両親も祖父も皆愛知県一宮市の出身、親戚も皆一宮市民で、僕も同様に同市で高校生まで過ごしました(生粋の尾張人、血液型はB型)。

東京音楽大学に入学し本格的にオーケストラの勉強をし始めたころ、中部フィルハーモニー交響楽団の存在を知り「僕の地元の尾張地方にも、プロオケがあるんだ！」と思った時のことは今でも覚えています。

大学を卒業し当団にエキストラとして呼んで頂き実家から通っていた時、大学に入学して以降ずっと家族と長く過ごすことが無かったので母がすごく嬉しそうでこう言う親孝行の仕方もあるんだ…と、その時思い、いつか帰ってこれたらいいなと思いました。

そして縁がありオーディションを受け入団し、自分自身が生まれ育った愛知県に帰ってこれたことは本当に幸せです。

まだまだ分からない事が沢山で、ご迷惑をかけたばかりの私なので、少しでも早く一人前の打楽器奏者になれるようアドバイスを頂いたら大変嬉しいです。

最後に、同じ大学のしかも在学中から大変お世話になった、小川先輩と共に入団したのも凄い偶然？必然？だと感じています。二人で力を合わせて…オーケストラの一番後ろから皆さんを若い力で良い刺激を与えるられるように頑張っていこうと思いますので、宜しくお願い致します！！

中部フィルだより 第25号

発行日 2014年12月5日
発行所 NPO法人
中部フィルハーモニー交響楽団
〒485-0041 小牧市小牧二丁目107(市民会館内)
TEL:0568(43)4333 FAX:0568(43)4334
<http://www.chubu-phil.com/>

編集後記

あっ！という間に、もう12月。年齢と共に月日が過ぎ去るスピードが加速する様に感じます。中部フィルは来年15周年を迎えます。これもひとえに、サポーター・フレンズの皆様をはじめ、会場にお越しいただいたお客様のご支援、ご高配の賜物であり、心より厚く御礼申し上げます。来年5月には15周年を記念して「マーラー復活」記念演奏会を開催します。チケット好評発売中☆皆様のご来場をお待ちしております。

芸術監督秋山和慶氏が文化功労者として顕彰

当団の芸術監督である秋山和慶氏が、本年度の「文化功労者」として顕彰されました。この朗報は、10月24日、犬山市民文化会館で恒例の住友理工・チャリティコンサートのリハーサル中に文化庁から伝達されました。これを伝え聞いた楽団員らは、すぐにファンファーレで監督にお祝いを申し上げたそうです。

多くの音楽賞・芸術賞に加え、紫綬褒章、旭日小綬章などの授章歴がある秋山氏ですが、「文化功労者」とは日本の文化向上発達に関し特に功績顕著な者をいい、文化勲章につぐ栄誉です。

秋山監督からお聞きしたところでは、指揮者としての卓越した技術・指導力もさることながら、「永年の地方オーケストラ、なかでも当団のようにできたばかりの楽団を熱心に指導育成し、日本のオーケストラ発展に多大な貢献したことが評価されたようだ」とのこと、このような栄誉ある著名なマエストロの指導を受けることができる中部フィルは、大変幸運なオーケストラでありまた光栄なことと改めて感謝申し上げ、監督には引き続き、中部フィルの更なる飛躍に向けてのご指導をお願いしたいと思っています。

マーラー「復活」合唱団結団式

2014年11月3日(日)文化の日、創立15周年記念合唱団の結団式が名古屋市音楽プラザにて行われました。

合唱は初めてという方から、合唱にかけては大ベテランという方まで約50名が出席されました。

結団式の後、合唱団芸術監督の堀氏の指揮で、第一回目の練習があり、充実した歌い初めとなりました。

「新しい合唱団の誕生ですね。大感激です。来年5月の本番はきっと感動的な演奏になるでしょう。もっと歌う人が欲しいです。歌いに来て下さい！」(堀)お問い合わせは事務局まで。



音楽こぼれ話あれこれ

ベルリンフィルVSウィーンフィル

ファウンダー 佐藤 宏

ベルリンフィルハーモニー管弦楽団(以下ベルリンフィル)とウィーンフィルハーモニー管弦楽団(以下ウィーンフィル)、両者は云わずと知れた世界最高峰のオーケストラである。しかし両者は運営形態はもとより、音質など演奏スタイルは全く違う性格をもっていると思う。勿論これは良い意味での事である。

ベルリンフィルはベルリン市を本拠に世界中のスタープレーヤーを集めたスター軍団といってよく、その演奏水準は最高に高く豪快無比で国際色あふれる音質といえるであろう。一方ウィーンフィルは普段はウィーン国立歌劇場管弦楽団でシーズンオフ以外は毎日オペラの伴奏をやっている。したがって大きなオーケストラ2団体分、つまり180人程の団員を抱えていて身分は国家公務員となっている。音質については、普段オペラの伴奏でオーケストラピットに入っていて、あくまでも歌手の音量(声量)を重視する為、ソフトな美しさが求められ、それが持味になっていると思う。

我国での人気度は、音楽の友誌などのアンケートでは完全に二分されているようだ。私自身の好みでいえば曲目によって異なる。例えばドイツもの、ベートーヴェンの交響曲はベルリンフィル、またモーツァルトの交響曲はウィーンフィルに軍配を挙げたい。

我国のオーケストラも世界のトップオーケストラに追いつけ追い越せ!!と頑張っているが、まだまだ先になりそうである。

中部フィルNEWS ~最近の出来事~

0歳からの家族で楽しむクラシックコンサート

「0歳からの家族で楽しむクラシックコンサート」は、普通のクラシックコンサートには入れられないような小さな子ども達にも本物の音の心地よさを感じてもらいたいと、小牧市を拠点に活動する市民活動団体「子育てママ応援隊M-cPlace」さんが毎年開催してきたもので、中部フィルは第6回から5年に亘り演奏をさせていただいていました。

第11回目を迎える今年度から、主催を中部フィルハーモニー交響楽団に移して開催することになりました。今年は8月30日(土)に小牧市東部市民センター講堂にて開催いたしました。公演は午前の部と午後の部の2回公演。

当日はたくさんのご家族にいただき、生の演奏をお楽しみいただきました。来年の夏も開催を予定しておりますので、ぜひご家族そろっての参加をお待ちしております。



0歳からの家族で楽しむクラシックコンサートin東北

2014年夏、「0歳からの家族で楽しむクラシックコンサートin東北」を石巻で開催しました。

東日本大震災という未曾有の災害にみまわれた東北の子ども達に、クラシックコンサートを届けたいという思いで、市民活動団体「子育てママ応援隊M-cPlace」さんが企画し中部フィルもその趣旨に賛同し参加させていただきました。

とても暑い日でしたがたくさんのご家族が会場に足を運んでくださいました。ご来場いただいたお客様から「来年もぜひ来てくださいね」とうれしいお言葉をいただき、短い時間でしたが東北の皆さんと楽しい時間を共有できました。



オーケストラを支える人々

「音響」

若尾綜合舞台 吉川雄太

2013年は大道具、2014年は音響として中部フィルハーモニー交響楽団「子供の文化芸術体験」に同行させて頂いております。普段は株式会社若尾綜合舞台で音響・大道具の仕事を中心に、市民会館や芸術劇場などで仕事をしています。ツアーにおいては、主に公演中のMCや楽器紹介などのマイクオペレートを行っています。観客の皆様へ声を届けることが私の仕事です。

「声を届ける」というと簡単な印象を受けますが、音というのは複雑です。会場の広さや造りにより響き方は様々で、その都度調整が必須となります。特に体育館は響きが複雑になりやすく難しい空間です。ただ声を拡声させただけでは、低音が出過ぎてしまい何を言っているのかわからない状態になります。そこでイコライザーという機材を使い、マイクの音質やスピーカーから出る音の調整を行います。毎回会場が違うため決まった形はなく、現会場にあった聞きやすい音作りをコンセプトに取り組んでいます。

マイクはスイッチのON/OFFで音が出ます。ツアーで使用しているマイクはスイッチ付きではないので、フェーダーというボリューム操作レバーを上下させることで音のON/OFFを調整しています。無音~最大音まで操作が可能で、音量を微調し聞きやすい音量を確保します。しかしながら、1度マイクをONにすると本人の声だけでなくいろいろな音を拾ってしまいます。耳障りに感じる部分や静かな部分では、マイクをOFFにして話したときにはONにするという細かな操作もこだわりの一つです。

マエストロやオーケストラが気持ちの良い公演ができることと観客から歓声が上がることがやりがいです。日々試行錯誤ですが、さらに良い音で声を届けていきたいと思っています。これからもよろしくお願い致します。



会長のちょっとチャット

藤井 昭

若い人の言葉についてゆけなくなると年寄り扱いされるわけですが、正真正銘の年寄りである私には最近いろいろ気になる日本語用法があります。

近頃もっとも気になるのは「やばい」という表現で、どうも「感動した」とか「素晴らしい」とか「珍しい」など何か強く感情に訴えるものに対して使われているようです。「やばい」は元來關東の隠語で良民は使わない言葉でしたが、いつのまにか表社会にでてきて、さらに用法が変化したのでしょう。

言葉は生きものなのでこれを否定するわけではありませんが、多彩な日本語の中から適切な言葉を選び出すという努力を放棄して、何でもひとつの言葉「やばい」に代表させてしまうという、その「怠惰」な用法に違和感を覚えています。「かわいい」も同じで、今は老人までもが何でも「かわいい」で済ませる傾向にありますね。これでは日本語の将来は「やばい」ではないか、と感じるのも後期高齢者の繰り言でしょうか。

中部フィル公演のあとで、若い観客たちは「今日の演奏はかわいくてやばかったね」などと言いながら会場を後にしているのでしょうか。